

イギリスの資格制度における国際バカロレアの位置づけ

花井, 渉
九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻 : 修士課程

<https://doi.org/10.15017/7378072>

出版情報 : 国際教育文化研究. 11, pp.45-56, 2011-08-10. Comparative and International Education, Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :



イギリスの資格制度における国際バカロレアの位置づけ

花井 渉

1. はじめに

「国際バカロレア」(International Baccalaureate、以下: IB)は、1990年代以降の急速なグローバル化の中で、国境を越えて移動する子どもの教育資格や経験が国境を持ち越せないという教育の接続性や教育内容の互換性の問題を解決しようとするひとつの試みとして、小国を多くかかえるヨーロッパを中心に発達した資格である。

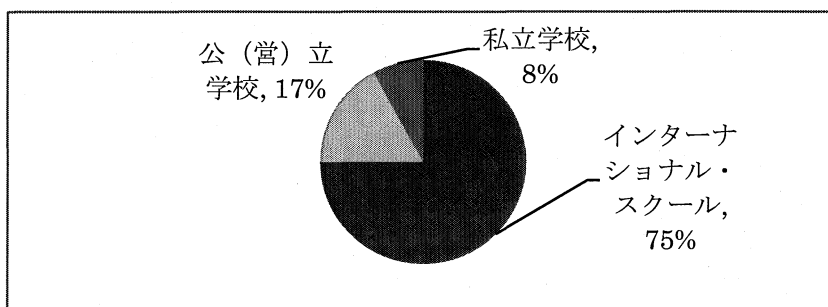
IBは、本来国境を越えて移動する子どもの教育の接続性の不都合を解消することが前提であった。しかし、イギリス¹では、後期中等教育修了段階の学習成果認証が、大学・カレッジ入学機構(Universities & Colleges Admissions Service、以下: UCAS)が作成した UCAS タリフ² (UCAS Tariff, 大学・カレッジ入学機構統一換算表)によって、数値的尺度の元に位置づけられており、多様な資格の認証が可能となっている³。この UCAS タリフには、イギリス国内の資格のみならず、IB も含まれており、そのポイントも換算することができるようになっている。これにより、イギリス国内のその他の資格との同等性を確保すると同時に、イギリス国内の高等学校において IB を取得し、そのままイギリス国内の大学に進学することが可能となった。つまり、イギリスではまったく国境を越えることなく、IB が国内における大学入学資格として機能していることが分かる。イギリスでは、先にも記した UCAS タリフによる資格認証(アクレディテーション)が可能であるため、このような国境を越えない生徒による IB 取得が可能になったといえる。

このように、国境を越えない生徒による IB 取得は、各国の公教育における国際教育への関心や必要性の高まりを示しており、これは近年の世界における IB 加盟校⁴の学校種別⁵の割合の変化によって見ることができる。

IB は、その起源がスイスのジュネーブ(Geneva)にある点やその後、欧米諸国のインターナショナル・スクールを中心に発展している点から、その教育内容の欧米偏重やエリート教育であるという批判を受けてきた⁶。しかし、2010年9月、イギリスのリバプールにおいて行なわれた IB 主催の会議において、国際バカロレア機構(International Baccalaureate Organisation、以下: IBO)の副事務局長であるヒル(Hill)は、IB が提供されている学校種別の割合が近年大きく変化してきていると述べている。1971年時点では、全 IB 加盟校(12校)のうち、75%がインターナショナル・スクールであり、次いで 17%が公(営)立学校、そして 8%が私立学校であった⁷(図1参照)。しかし、2010年には、全 IB 加盟校(2,747校)のうち、57%が公(営)立学校であり、次いで 31%が私立学校、そして 12%がインターナショナル・スクールである⁸(図2

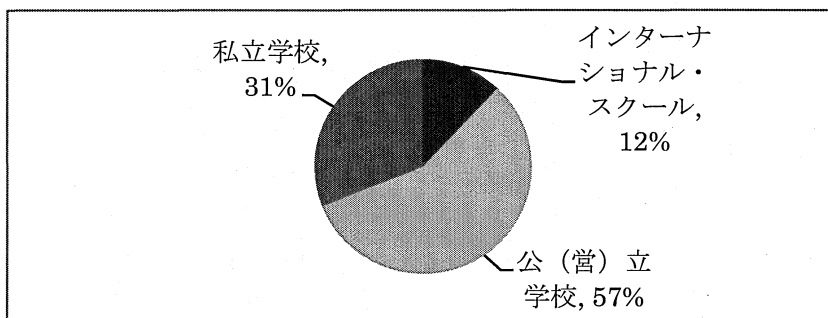
参照)。

【図 1】 1971 年（全 IB 加盟校 12 校）



Hill, I., “IB: past, present, future”, 2010 年 9 月をもとに筆者作成

【図 2】 2010 年（全 IB 加盟校 2,747 校）



Hill, I., “IB: past, present, future”, 2010 年 9 月をもとに筆者作成

このことから、これまでエリート教育であるとされてきた IB 教育が、現在では国の補助を受けた、公（営）立学校を中心に提供されていることが分かる。つまり、これらの現状から、IB 教育がエリート教育であるという批判ができなくなっており、いわば IB 教育の大衆化ともいえるべき現象が起きているといえる。また、これは同時に各国の公教育における国際教育への関心や必要性が高まっていることも示していると考えられる。

現在、IB は世界 141 ヶ国の 3,264 校⁹（2011 年 6 月現在）において提供されているが、アメリカに次いで 2 番目に多くの IB 加盟校（219 校）を有する国がイギリスである。イギリスでは、2000 年に行なわれたナショナル・カリキュラムの改革（カリキュラム 2000）を契機に、A レベルの改革を含む、資格制度改革に着手し始めた。現在、イギリスの IB 加盟校は 219 校（2011 年 6 月現在）存在するが、そのうちの 149 校（全体の約 68%）が公営学校であり、現在 11 校が IB 加盟校になるために、IBO への申請を行なっている¹⁰。

このように、現在イギリスにおいても、公営学校を中心に IB 加盟校が増加傾向にあり、それによりイギリス国内の高等学校から大学に進学する生徒の資格を認証する必要性が高まったと考えられる。しかし、イギリスでは UCAS タリフによる資格認証制度が整備されており、2008 年からは IB も認定されている点からも、IB がイギリス国内における大学入学資格として機能してい

るといえる。

以上のように、国内外の資格認証制度が整備されている点や伝統的な GCE - A レベル (General Certificate of Education-Advanced Level、以下：A レベル) に対する一部の批判や不信感から、イギリス国内において A レベルを廃し、IB を提供する公営学校¹¹も出てきている点から、イギリスでは資格制度改革の中で、かつては「黄金のスタンダード」(Gold Standard)とまでよばれた、伝統的な A レベルを保持しようとする動きと同時に、A レベルの代替資格として IB を含むその他の新たな資格を導入する動きがみられている。

本稿では、教育のグローバル化の中で、国境を越えて持ち越すことが可能な、世界共通の大学入学資格として開発された IB が、イギリスの資格制度においてどのような位置づけにあるのかを、イギリスの資格制度の変遷、アカデミックな資格と職業資格をめぐる政策背景やイギリス国内における IB に関する議論などをおして明らかにすることを目的とする。

2. イギリスの資格制度と政策背景

本節では、イギリスの資格制度の変遷や現在イギリス国内において行なわれている大学入学資格に関する議論を、政策背景などを通じて考察する。

2 - 1 イギリスの資格制度の変遷

1951 年、18 歳時に取得する後期中等教育修了水準で大学（高等教育）の入学基礎要件となる資格として A レベルが登場した¹²。また、1970 年代の不況や若年失業者の増加に伴い、教育・訓練とそれに伴う新たな資格（アカデミックな資格と職業資格）の設定¹³や各資格の整理・統合・再編が繰り返さされており、「黄金のスタンダード」とよばれた A レベルの重要性と同時に、職業資格との同等性を確保するという歴史的な背景があった。そして、1993 年以降につくられた「全国資格枠組み」(National Qualifications Framework、以下：NQF) によって、アカデミックな資格と職業資格は、同価値とみなすことができるようになった。

しかし、イギリスではアカデミック（普通）教育に偏重し、職業教育を軽視する傾向があった¹⁴。そこで、1980 年代には、当時の保守党政権が、保護者の学校選択のためには、学校の多様化、特色化が必要であるとの指摘から、「1988 年教育改革法」(Education Reform Act)において、技術や芸術系の特色をもった中等学校（CTC など）を設立させた¹⁵。その後も、1997 年の新労働党政権が発足して以降、職業教育に重点を置く政策が実行されてきた。

2 - 2 A レベルに対する批判

しかし、アカデミックな資格に対しても、これまで多くの批判がなされている。A レベルは、1951 年に導入されて以降、大学入学資格として「黄金のスタンダード」として認知され、機能してきた¹⁶。しかし、大学の受験科目がわずか 3 科目であること、それどころかポリテクニクや高等教育カレッジでは、2 科目受験で入学できる場合も多いことに対して、入学者の学力が狭い範囲に限定され、偏りがでているとの批判がなされたのである¹⁷。この A レベルに対する批判は、今日まで続いており、現保守党のマイケル・ガヴ (Michael Gove) 教育大臣も A レベル改革の必

要性を提唱している。ガヴ教育大臣は、A レベルが大学準備教育として十分に機能していないという一部の大学からの批判を受け、現行の制度よりもよりアカデミックで厳密な制度への変革に取り組もうとしている。

具体的な政策として、教育省は、2010 年 11 月に出した白書「教授の重要性」(The Importance of Teaching)において、新たに「イングリッシュ・バカロレア」(English Baccalaureate、以下：E-Bacc)の創設を提案している¹⁸。ガヴ教育大臣は、この E-Bacc を導入することにより、学校に対し、すべての若者により広く、深い知識を身につけさせることができるとしている¹⁹。E-Bacc は、資格ではないが、A レベルにおいて、英語（国語）、数学、理科、現代もしくは古典外国語、そして歴史や地理のような人文科学の 5 科目を履修し、A*-C の評価を得た生徒に対して授与されるサーティフィケートである²⁰。すなわち、これは A レベルが 3 科目のみの履修によって大学入学資格として機能しており、生徒の学力を狭い範囲に限定させ、偏りを生じさせているという課題を解消するものであると考えられる。

このガヴ教育大臣の A レベル改革に対し、現労働党のシャドー・キャビネット教育大臣であるバーンハム (Andy Burnham) は、ガヴ教育大臣の A レベル改革は、アカデミック（普通）教育に偏重しており、大学進学を考えていない若者を切り捨てる政策であると批判している²¹。

一方で、校長会議²² (Headmasters' and Headmistresses' Conference) は、現行のモジュラー方式の A レベルから 2 年間の課程を経て試験を行なう伝統的な方式に戻すことを示唆している。約 10 年前までは、通常 2 年間の最後に試験を行なっていたが、今日の A レベル試験は段階的に行なわれており、個々のモジュールの再試験を行なう機会を生徒に与えることにより、全体の成績を向上させている。これは、2007 年時点で 4 人に 1 人が A レベル試験において“A”をとっており、独立学校にいたっては、その倍近くの割合を示している点から批判的になっている。また、独立学校評議会 (Independent School Council) の最高責任者であるリスコム (David Lyscom) は、リーグ・テーブルによる学校の成果の比較には欠点が多く、特に現在国内において提供されている資格が多様である点も問題であると指摘している²³。このように、近年イギリスでは、独立学校を中心に、A レベル試験をより厳しくすべきであるという声があがってきていることが分かる。

3. A レベルの代替資格としての国際バカロレア

本節では、イギリスにおける IB の導入と政策背景を考察し、現在公営学校を中心に IB が A レベルの代替資格として注目されていることを明らかにする。そして、現在イギリス国内において、A レベルの代替資格として導入されているその他の新たな資格と IB のカリキュラム内容についての検討を行ない、IB がどのようにしてイギリス国内における大学入学資格として機能しているのか、また IB を導入することによるイギリス国内への影響を検討する。

3 - 1 イギリスにおける IB の導入

イギリスでは、近年の A レベルに対する批判の中で、それに代わる資格の模索が続けられてきた。オレイリー (O'Leary, 1999) は、イギリスやウェールズにおいて IB は、A レベルに代わる資格

として広く認知されていると述べている。また、IB は 1970 年に連合王国大学学長委員会 (Committee of Vice-Chancellor and Principals of University of the United Kingdom) の認知を受けており、イギリスの全大学で入学資格の一般要件を満たすものとして認められており、1971 年以来、多数の高等教育機関（大学やポリテクなど）において、A レベルの代替資格として扱われてきた²⁴。また、ブレア労働党政権は 2006 年 11 月に、IB の提供を希望する学校に対して 250 万ポンド相当の投資を行なう財政支援政策を発表し、2010 年までに各地方当局の管轄下にある公営学校のうち、最低でも 1 校を IB 加盟校にすることを求めた²⁵。これは、2008 年 5 月にブラウン労働党政権によって、義務としないことが明言されたものの、少なくともブレア政権下において、IB が A レベルに代わる新たな資格の選択肢として注目されていたと考えられる。

また、UCAS が 2008 年に IB を UCAS タリフによって、国内の資格と同水準として取り扱い、資格認証をすることを決定して以降、IB 加盟校はリーグ・テーブルの順位を飛躍的にあげている。これは、IB の 35 点（最高 45 点）が、A レベルの 4.5 科目において“A”をとる点数に相当する点からも、IB の難しさと水準の高さをみることができる。そのため、一部の校長は、IB が近い将来、新たな「黄金のスタンダード」になるのではないかという懸念を示している²⁶。

先にも記したように、今日の世界における IB は、それまでの一部の生徒しか受けることのできなかった私立、インターナショナル・スクールから公（営）立学校において提供されるようになった。これは、同様にイギリスにおける公営学校においても見られる傾向である。

例えば、バーミンガム (Birmingham) にあるシティ・テクノロジー・カレッジ (City Technology College、以下：CTC) キングハースト・アカデミー (Kinghurst Academy) は、1990 年の 4 月より IB 加盟校として、イギリスの公営学校の中でも比較的早い時期から IB を提供し始めている学校である²⁷。CTC キングハースト・アカデミーがあるキングハーストでは、人口の半数以上が地方自治体によって供給される低価格の賃貸住宅 (social housing) に居住しており、16 - 74 歳のうちの 45% が大学入学資格を含む資格を一切取得していない。この割合は、近年改善傾向にあるものの、現在も 16 - 19 歳のうちの 5 人に 1 人が教育を受けていない地域である²⁸。CTC キングハースト・アカデミーでは、IB 教育が 6 科目に加え、研究論文²⁹や知識の理論³⁰、ボランティア活動などを含む CAS³¹などの 3 要件を履修する点で、非常にチャレンジングな資格であり、IB を提供することにより、生徒に自信と自立心を身につけさせることを期待している³²。

このように、今日のイギリスでは IB を提供する公営学校が増加傾向にあり、過去 3 年間で 83 校が IB に関心を示している³³。また、イギリスでは A レベルの合格率が 28 年間連続して上昇していることが報道されて以降、メインストリームの水準が低下しているのではないかという懸念があがってきている。また、バンネル (Bunnell, 2008b) は、これを「成績インフレ」 (Grade Inflation) とよび、それに対する批判がイギリス国内で高まっており、その結果、A レベルの代替資格としての IB が注目されていると述べている。このように、現在イギリスでは、伝統的な A レベルに対する不信感から、それに代わる資格が模索されているのである。

現在イギリスにおける IB 加盟校は 218 校存在し、そのうちの 149 校（全体の約 68%）が公営学校であり、CTC キングハースト・アカデミーなどの一部の学校では、すでに A レベルを廃し、

IB と BTEC (Business Technology Education Council) のみを提供している点からも、IB が私的セクターのみならず公的セクターにおいても、今後も拡大していくのではないかと考えられる。

以上のように、今日のイギリスの資格制度の中で、A レベルに対する批判の高まりから、その代替資格の模索が進められており、その中で IB が低所得層の子どもが多い地域にある公営学校を含む、公的セクターにおいて提供され始めていることが分かる。

3 - 2 ケンブリッジ Pre-U

一方で、A レベルに代わるイギリス独自の新たなアカデミックな資格も導入され始めている。例えば、ケンブリッジ国際試験 (Cambridge International Examination: 以下 CIE)³⁴は、2008 年に A レベルに代わるアカデミックな資格として、「ケンブリッジ Pre-U」(Cambridge Pre-U、以下: Pre-U)、そして 2010 年には、「ケンブリッジ・インターナショナル A レベル」(Cambridge International A-level) をそれぞれ開発している。特に Pre-U は、政府からカリキュラム開発の付託を受けている独立行政機関である、資格カリキュラム機関 (Qualification and Curriculum Authority)³⁵によって、すでに認定されており、イギリス国内の 143 大学において認知されている。また、2011 年 3 月からはドイツの海外教育局 (ドイツの政府機関) もこの Pre-U をドイツ国内の大学進学への入学資格として認定している。これにより、Pre-U 取得者は、ドイツの大学への進学の門戸が開かれたといえる³⁶。また、ドイツ以外にもアイルランド (9 大学)、カナダ (11 大学)、アメリカ (57 大学) の各国においても、Pre-U を認定する国は増加傾向にあり、今後も拡大することが予想される³⁷。

Pre-U は、学校、科目協会 (Subject Association) と大学が協働で開発した大学入学資格であり、イギリス政府の資格試験における監督官庁である、OFQUAL (Office of Qualifications and Examinations Regulation) によって認定された資格である³⁸。

Pre-U は、A レベルと同様、2 年の課程であるが、より「深く掘り下げる学習」(digging deeper) を強調している³⁹。Pre-U の取得要件は、以下のとおりである；

- ・ Pre-U 主要科目 (principal subject) を 3 科目履修
- ・ グローバルな視点 (global perspective)
- ・ 自律的研究レポート (Independent Research Report)

Pre-U 主要科目は、以下の中から選択することができる；

- | | | |
|-----------|-----------|---------------|
| ・ 芸術とデザイン | ・ 生物 | ・ ビジネスとマネジメント |
| ・ 化学 | ・ 考古学 | ・ 比較政治と政策 |
| ・ 経済学 | ・ 英文学 | ・ 高等数学 |
| ・ 地理 | ・ 古典ギリシャ語 | ・ 歴史 |
| ・ 美術史 | ・ ラテン語 | ・ 中国語 |
| ・ 数学 | ・ 現代外国語 | ・ 音楽 |
| ・ 哲学と神学 | ・ 物理 | ・ 心理学 |
| ・ スポーツ科学 | | |

Pre-U 取得を希望する生徒は、主要科目から 3 科目を選択し、各科目が 10 段階評価⁴⁰で P3

以上の成績を収める必要がある。また、それに加え、「グローバルな視点」と「自律的研究レポート」も履修する。しかし、主要科目（3科目）の代わりとして、Aレベルの科目を2科目まで履修することもできる。つまり、2科目をAレベルの科目とし、Pre-U主要科目を1科目履修することによって、Pre-U主要科目の取得要件を満たすことができるということである。この点から、Pre-UがAレベルを保持しつつも、イギリス独自の新たな大学入学資格として機能していると考えられる。

「グローバルな視点」は、今日の急速に変化する世界の中で、生徒が批判的、建設的な意見をもつためのスキルを身につけるプログラムである。これは、ゼミ形式で進められるものであり、倫理、経済、環境、技術、政治・文化の5つのトピックを学び、議論を展開し、プレゼンテーションを行なうことで、グローバルな視点をもった人材を育成することができるとされている。その評価は、1時間半の筆記試験、1500字の小論文、15分のプレゼンテーションによって総合的に判断される。

自律的研究レポートは、「グローバルな視点」を通じて学んだトピックの中から1つを選択し、それをより深く掘り下げて研究することが目標とされている。生徒は、このレポートを通じて、特に文献収集能力、多様な情報の操作能力、計画・時間管理・優先順位を判断する能力・自発性・持続的な集中力・コミュニケーション能力を含む、幅広い学習スキルを身につけることが期待されている⁴¹。

しかし、バンネル（Bunnell,2008b）は、このPre-UがIBの特徴のひとつである「研究論文」⁴²を課すなど、IBと類似した教育内容を提供している点から、これを「見せかけのIBディプロマ」（pseudo IB diploma）とよんでいる。また、IBは模倣されやすい特性をもっており、今後もIBと類似した資格が生まれる可能性も指摘されている⁴³。以下がIBとPre-Uのカリキュラム内容を比較したものである；

	国際バカロレア	ケンブリッジ Pre-U
創設	1968 年	2008 年
取得要件	6 科目＋ 研究論文、知識の理論、CAS	3 科目＋ グローバルな視点、 自律的研究レポート
教授言語	英語、フランス語、スペイン語	英語
課程	2 年間	2 年間
評価	7 段階	10 段階
認知	世界 141 ケ国	世界 5 ケ国

IBとPre-Uの共通点としては、両資格ともに国内外において通用する国際的な大学入学資格である点と取得要件として、主要科目に加えて自主研究や調べ学習などの要件が含まれる点があげられる。しかし、Pre-Uは新しい資格であり、2010年に最初の取得生が出てきたばかりであるため、イギリス国内外においてどのように機能するのかは今後の検討課題である。

以上のように、イギリスでは近年、伝統的なAレベルに対する批判から、その代替資格の導入

が模索されている。その中で、IB は歴史的にも早い時期から A レベルに代わる資格として注目されてきた。しかし、イギリス独自の代替資格の創設の動きもみられており、これは IB に対抗する動きとしてみることができる⁴⁴。

また、イギリスは歴史的に職業ルート (vocational route) を軽視する傾向があった⁴⁵。そのため、アカデミックな資格と職業資格を統合する試みがなされてきた。これに関しては、IB においても同様の動きがみられる。現在 IB が 2011 年 9 月からの導入に向け、試験段階にあるものが、IB キャリア関係サーティフィケート (IB Career-related Certificate、以下 : IBCC) ⁴⁶である。これは、IB のアカデミックな科目に加え、職業科目も履修することが可能となるものである。イギリスにおいて、この IBCC が導入されることにより、今後さらにアカデミックな資格と職業資格の統合に関する議論が活発になると考えられる。また、今後の保守・自民党連立政権は、国内の資格、特にアカデミックな資格の見直しに重点を置いている点から、IBCC の導入は今後の中等教育段階の資格制度に影響を与えると考えられる。

4. おわりに

本稿の結論としては、以下の点があげられる。

イギリスの資格制度は、その多様性と複雑な構造、そして全国的な水準によって整備されていなかったため、しばしば「資格のジャングル」とよばれてきた。その結果、これまで多くの資格 (アカデミックな資格や職業資格など) が導入され、その整理、統合、再編が繰り返されてきた。しかし近年、アカデミックな資格と職業資格を含め、次々と新たな資格が導入されている。このような状況の中で、学校、教員、親や生徒は、どの資格を取得すれば、将来の大学進学や就職に有利に働くのかが分からないという状態に陥る可能性があると考えられる。また、A レベルの「成績インフレ」により、その代替資格の必要性が議論されている。

その中で、IB は A レベルの代替資格になり得る資格として認知されてきた。また、現在公営学校を中心に IB 加盟校は増加傾向にあり、その中には A レベルを廃し、IB を提供する公営学校も出てきている。UCAS タリフにおいても IB は認証されており、この点からもイギリスの資格制度の中で IB が注目されていると考えられる。

しかし、その一方で、イギリス独自の大学入学資格として、ケンブリッジ Pre-U などの新たな資格も開発されており、これは IB に対抗する動きとしてみることができる。また、イギリス政府による E-bacc の導入も、ガヴ教育大臣がバカロレア制度に関心があったことから開発されたものであり、この点も IB の導入によるイギリス国内への影響とみることができる。

以上の点からも、IB はイギリスにおいて A レベルに代わる資格として注目されており、それに関する議論も活発に行なわれている。しかし、近年イギリス独自の新たな資格も開発されており、その関係性は明らかではないが、少なからず IB の導入による影響であると考えられる。

今後の課題としては、A レベルの代替資格のひとつとしての IB が、なぜ現在イギリスの資格制度の中で注目されているかを、特に IB 加盟校の校長や IB コーディネーター⁴⁷へのインタビューを通じて、イギリスにおいて IB を提供する意義、Pre-U など新たな資格との関係性を明らかにする。特にイギリスは、1988 年教育改革法により、親の学校選択権の拡大や学校のアカウントビリ

ティを重要視しており、現保守・自民連立政権においても、教育の選択権拡大を進めようとする中で、IBを導入する意義を、地域性の観点を踏まえ、明らかにしたいと考えている。そこで、イギリスの学校への調査を通じて、IBが国際教育のひとつのモデルとして、イギリスの公教育において機能する実態とそれによって生じる課題を明らかにしたい。

【引用・参考文献】

日本語文献

1. 原清治・山内乾史・杉本均編著『増補版 教育の比較社会学』、学文社、2008年
2. ポール・ウィリス（著）、熊沢誠・山田潤（訳）『ハマータウンの野郎ども - 学校への反抗・労働への順応』、ちくま学芸文庫、1996年
3. 宮腰英一（研究代表者）『イギリスにおけるIB校と多文化教育に関する調査研究』、松下国際財団報告書、東北大学生協印刷・出版事業部、1995年
4. 柳田雅明『イギリスにおける「資格制度」の研究』、多賀出版、2004年
5. 柳田雅明「イギリスの現行資格制度に関する日本での研究動向」『教育制度学研究第4号』pp.240-243、日本教育制度学会、1997年

英語文献

1. Bunnell, T. (2008a) "The Global Growth of the International Baccalaureate Diploma Programme Over the First 40 Years: A Critical Assessment", *Comparative Education*, Vol.44, No.4, pp.409-424
2. Bunnell, T. (2008b) 'The International Baccalaureate in England and Wales: the alternative paths for the future', *Curriculum Journal*, Vol.19, No.3, p.151~160
3. Department for Education (2010) *The Importance of Teaching*, DfE Publications, The Stationery Office.
4. IBO (2007) "Language Policy", IBO, Geneva, Switzerland
5. O'Leary, J. (1999) 'Top School Abandons New A Levels: Baccalaureate the Mark of Excellence', *The Times*
6. Peterson, A.D.C. (1972) "Is the IB an elitist project?", IBO Annual Bulletin 8

¹ 本稿では、イングランドを指す。

² 高等教育機関入学者選考での全国統一換算表

³ UCASは、2008年よりIBの資格認証を開始した。

⁴ IB World Schoolの訳。IB実施校とも訳される。国際バカロレア機構（IBO）からIB教育のプログラムを提供する権利を認可された学校を指す。

⁵ 学校種別とは、ここではインターナショナル・スクール、私立学校、公（営）立学校の3つの学校種に分けて説明する。

⁶ 例えばフランスでは、1980年代のミッテラン（Mitterrand）政権がIBをエリート・プログラムであると批判している（Bunnell, 2008）。このような批判は、これまで常にIBにとって

- の懸念材料であり、IBO の初代事務局長であったピーターソン (Peterson, 1972) でさえ、「IB はエリート・プロジェクトなのだろうか?」という疑問を投げかけている。
- 7 Hill, I., “IB: past, present, future”, 2010 年 9 月、p.28、
<https://www.ibo.org/ibaem/conferences/proposal/documents/IanHillIBpastpresentandfutureSept2010Liverpool.pdf> より 2011 年 2 月 10 日ダウンロード
- 8 Ibid., p.32
- 9 <http://www.ibo.org/who/> (2011 年 6 月 6 日付検索)
- 10 “International baccalaureate gaining ground in state schools”, Guardian, 2010 年 9 月 7 日、
<http://www.guardian.co.uk/education/2010/sep/07/international-baccalaureate-state-schools-a-levels?INTCMP=SRCH> より 2011 年 2 月 6 日ダウンロード
- 11 例えば、バーミンガムにあるシティ・テクノロジー・カレッジ・キングハースト・アカデミー (Kinghurst Academy) がある。
- 12 柳田雅明『イギリスにおける「資格制度」の研究』、多賀出版、2004 年、p.69-70
- 13 松永由弥子「イギリスの職業資格制度」『生涯学習 e 事典』、日本生涯教育学会、2005 年、
<http://ejiten.javea.or.jp/content.php?c=TWpnek1ERTQ%3D> (2011 年 2 月 24 日付検索)
- 14 ポール・ウィリス (著)、熊沢誠・山田潤 (訳)『ハマータウンの野郎ども - 学校への反抗・労働への順応』、ちくま学芸文庫、1996 年
- 15 原清治・山内乾史・杉本均編著『増補版 教育の比較社会学』、学文社、2008 年、p.132:1-4
- 16 柳田雅明『イギリスにおける「資格制度」の研究』、多賀出版、2004 年、p.70:11-12
- 17 上掲書、p.70:13-15
- 18 Department for Education (2010) *The Importance of Teaching*, DfE Publications, The Stationery Office.
- 19 “Vocational education has ‘lost its way’ says Gove”, 2010 年 9 月 9 日、
<http://www.bbc.co.uk/news/education-11229469> より 2011 年 2 月 25 日ダウンロード
- 20 Department for Education (2010) *The Importance of Teaching*, DfE Publications, The Stationery Office., p.44
- 21 “Gove blames Labour for ‘soft’ subjects studied”, 2011 年 2 月 4 日、
<http://www.guardian.co.uk/education/2011/feb/04/gove-soft-subjects> より 2011 年 2 月 27 日検索
- 22 独立学校校長会議とも訳される。
- 23 “Independent schools ‘abandoning modular A-levels’”, 2010 年 1 月 15 日、
<http://news.bbc.co.uk/2/hi/8460189.stm> より 2010 年 7 月 30 日ダウンロード
- 24 宮腰英一 (研究代表者)『イギリスにおける IB 校と多文化教育に関する調査研究』、松下国際財団報告書、東北大学生協印刷・出版事業部、1995 年
- 25 “International baccalaureate gaining ground in state schools”, Guardian, 2010 年 9 月 7 日、
<http://www.guardian.co.uk/education/2010/sep/07/international-baccalaureate-state-schools-a-levels?INTCMP=SRCH> より 2011 年 2 月 6 日ダウンロード
- 26 “What is the future for A-levels?”, 2006 年 8 月、
http://news.bbc.co.uk/2/hi/uk_news/education/5263782.stm より 2010 年 7 月 30 日ダウンロード
- 27 <http://www.ibo.org/school/000568/> (2011 年 2 月 6 日付検索)
- 28 “International baccalaureate gaining ground in state schools”, Guardian, 2010 年 9 月 7 日、
<http://www.guardian.co.uk/education/2010/sep/07/international-baccalaureate-state-schools-a-levels?INTCMP=SRCH> より 2011 年 2 月 6 日ダウンロード
- 29 6 科目群の中から、自分の関心のある分野からトピックを決め、それについての研究論文を書く。IBO の規定により、4000 字のエッセイを書くことになっている。(日本語で書く場合は、8000 文字)
- 30 Theory of Knowledge とよばれ、IB の中核を成すものである。主な目標として、生徒が 6 科

目群で得た知識を相互につなぐスキルを身につけさせることである。その際、特に批判的な思考や省察が重要視されている。

- 31 Creativity, Action, Service (CAS)は、創造的な活動、スポーツなどの身体活動、社会奉仕活動を IB 課程の 2 年間のうちに、それぞれ 50 時間ずつ行なうものである。
- 32 “International baccalaureate gaining ground in state schools”, Guardian, 2010 年 9 月 7 日、
<http://www.guardian.co.uk/education/2010/sep/07/international-baccalaureate-state-schools-a-levels?INTCMP=SRCH> より 2011 年 2 月 6 日ダウンロード
- 33 これは、2008 年に UCAS タリフによる IB のポイントの換算が可能になったことが要因と考えられる。
- 34 国際教育プログラムと 5-19 歳のための資格を提供する世界最大の機関
- 35 現在は、資格カリキュラム開発機関 (Qualification and Curriculum Development Agency : QCDA) に改組している。
- 36 http://www.cie.org.uk/news/announcements/detail?announcement_id=37478、(2011 年 6 月 9 日付検索)
- 37 <http://recognition.cie.org.uk/> (2011 年 6 月 15 日付検索)
- 38 <http://www.cie.org.uk/docs/qualifications/preu/guide/Pre-U%20Guide%20for%20HE.pdf> より 2011 年 6 月 14 日ダウンロード
- 39 “A-level alternative gets approval”, 2008 年 4 月 14 日、
http://news.bbc.co.uk/2/hi/uk_news/education/7346284.stm より 2010 年 7 月 30 日ダウンロード
- 40 Distinction (D1, D2, D3), Merit (M1,M2,M3), Pass (P1,P2,P3), U の 10 段階評価。P3 以上が合格となる。
- 41 Cambridge Pre-U Diploma, 2008 年 9 月、
http://www.cie.org.uk/docs/qualifications/preu/syllabus_outlines/Cambridge%20Pre-U%20Diploma%20Overview%20lo.pdf より 2011 年 2 月 26 日ダウンロード
- 42 IB では、Extended Essay とよばれ、Pre-U の自律的研究レポートと同様に、調べ学習を行ない、4000 字のエッセイを書くことになっている。(日本語で書く場合は、8000 文字)
- 43 Bunnell, T. (2008a) “The Global Growth of the International Baccalaureate Diploma Programme Over the First 40 Years: A Critical Assessment”, *Comparative Education*, Vol.44, No.4, pp.409-424
- 44 ガヴ教育大臣は、「科学や他国の文化などを知らない生徒は、自らを世界から遮断してしまっている」と指摘し、「現在ヨーロッパやアジア諸国を中心に運用され、イギリスよりも広く、深い教育カリキュラムを提供しているバカロレア制度に非常に興味がある」と述べ、イギリス独自の代替資格の必要性を提唱している。また、現行のイギリスの教育制度は、早期に生徒の可能性を狭めてしまっていることを指摘している。
- <http://www.guardian.co.uk/politics/2010/sep/05/michael-gove-baccalaureate-gcse> 2011 年 6 月 15 日付検索
- 45 “What is the future for A-levels?”, 2006 年 8 月、
http://news.bbc.co.uk/2/hi/uk_news/education/5263782.stm より 2010 年 7 月 30 日ダウンロード
- 46 IBO が 2008 年より試験的に導入し、2011 年 9 月より本格的に導入する予定の IB 独自の職業科目。修了者には、サーティフィケートが授与される。
- 47 各 IB 加盟校に配置されている職員。IB 加盟校と IBO とのパイプ役として、試験の準備などを行なう。

The International Baccalaureate viewed in the British Qualification System

Wataru HANAI

This paper attempts to clarify how the International Baccalaureate (IB) is viewed in the British qualification system, by looking at the educational policy and the discussion concerning the IB.

The qualification system in England has been quite complex and diverse from the past, since many new qualifications, both academic and vocational, were developed by many awarding and examining bodies. Therefore in the past, qualifications were classified, integrated and reorganised over and over.

This situation is continuously seen in the qualification system of today's England, and many new qualifications are being developed. As a result, schools, teachers, parents and students are having a hard time to choose the best qualification to take.

In this complex situation, IB has been recognized as an alternative qualification for the A level. This is because in recent years, the A level has been criticised for its easiness to take, and in fact, the A level grade has risen for over 28 years in a row.

Today, many state schools in England are turning into IB world schools (schools which offers IB education), and some schools have already abolished A level and are offering only the IB. Furthermore in 2008, UCAS admitted the IB in the UCAS Tariff, and started accrediting tariff point for the IB.

Also the Education Secretary, Michael Gove announced to introduce an "English baccalaureate" (E-bacc) to recognise the achievements of GCSE students who complete a broad course of studies. Mr. Gove is interested in the baccalaureate system, and the introduction of this new E-bacc can be seen as an influence caused by the spread of the IB among state schools in England.

However, the Cambridge International Examination (CIE) has developed a new qualification, "Cambridge Pre-U" (Pre-U) since 2008, and this is also seen as an alternative qualification for A level. But according to some critiques, this Pre-U is called "pseudo IB diploma", because the curriculum looks similar to which the IB offers. This paper points out that this new qualification developed by the CIE is also seen as an influence caused by the spread of the IB system in England, and it can also be seen as an opposition to the IB.

In today's British qualification system, the IB is recognised as an alternative qualification for the A level, and many state schools in England are starting to offer the IB education. However, there is also a movement which tries to maintain the British traditional qualification, and as a result, the E-bacc and Pre-U were developed. This paper points out that this movement could be seen as an influence caused by the spread of the IB in England.